



← 繰り込みに向かう氏子町

時代を超えて伝えられる
神と人との祭礼絵巻

しきたりを重んじ
肅々とくり広げる
屋台行事



今宮神社境内における「手打ち式」 ↑

提灯に火がとまり、幻想的な姿に変貌した彫刻屋台を背に、屋台繰り込みが無事に終了した事を確かめ、境内での「手打ち式」が行われます。

鳥居前での辻迎え →

一番町からの屋台繰り出しを迎える鳥居前の今宮町中老の方々



500年の歴史を刻む今宮神社

鹿沼ぶっつけ秋祭りは「今宮神社祭の屋台行事」として、平成15年2月国の重要無形民俗文化財に指定されました。

神社の大太鼓が告げる

「彫刻屋台繰り込み」

提灯の明かりが、幻想的絵巻をつくる

「彫刻屋台繰り出し」

祭りの最大の見どころである「繰り込み」。江戸末期より付け祭りの主流は彫刻屋台に移行し、祭りの見せ場は今宮神社への屋台繰り込みとなりました。

町内を曳き廻された屋台は、祭りの中心である「今宮神社」へ集結。

参道の道幅に合わせその大きさが決められた屋台が民家の軒下すれすれに進む様は、若衆の運行技術が試される場でもあります。

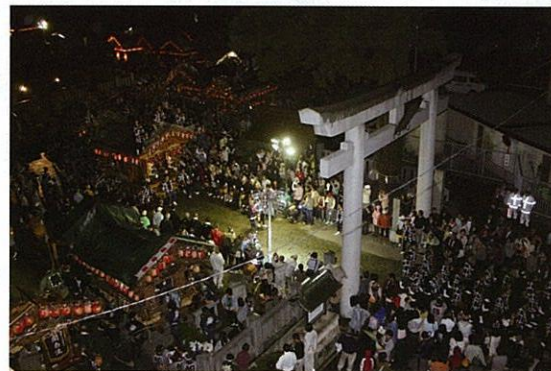
幟旗直前まで進み繰り込み順番を待つ時間は、町衆たちが待ちに待った瞬間です。自慢の絢爛豪華な屋台と時空を共有することこそが、祭りの醍醐味であり、心が満たされるひとときなのです。

いよいよ繰り込み。囃子も「五段囃子」へと切り替わり、町衆の緊張は頂点に達します。屋台は大鳥居をくぐり境内へ…。

境内にすべての彫刻屋台が勢揃いした様は圧巻です。

日没になると、一番町の合図により提灯に火がともされ、「繰り出し」が始まります。

漆黒の闇の中、提灯の灯りに浮かびあがる彫刻屋台は、見る者たちを魅了します。



屋台繰り出し



屋台繰り込み